



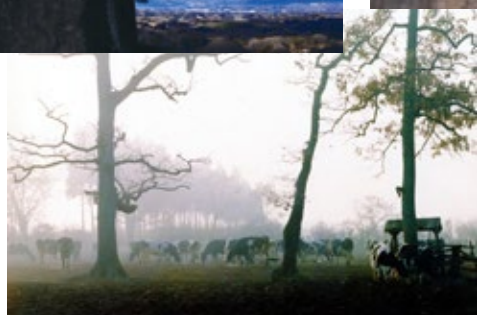
東北電友会会報

97号

令和7年
8月発行

シリーズ

おらほの自慢



～ふるさとの
隠れた魅力を再発見～



写真提供／電友会 福島支部

— 目次 —

ごあいさつ

・電友会 東北地方本部長	1
・NTT 東日本 宮城事業部 福島支店長	2
・支部長メッセージ 福島支部長	3
NTT グループ東北だより	4
震災・災害コーナー	7
東北地方本部だより	11
各地区電友会だより	13

会員リレーコーナー	77
会友コーナー 文芸・随想	82
お役立ちコーナー	91
〈特集〉戦争当時の記憶 ～戦後 80 年の節目を迎えて～	92
NTT 東日本からのお知らせ	100
編集後記	103

発行／電友会東北地方本部

電友会東北

検索



健康で楽しい日々を…

電友会 東北地方本部長

佐 藤 糾



この度、電友会東北地方本部地方評議員会において、本部長に選任されました佐藤糾です。平成29年から副本部長、令和3年からは事務局長として務めてまいりました。引き続きよろしくお願いいたします。

高石前本部長はコロナ禍という困難な状況の中でも、交流の場を大切にし、活動の灯を絶やすことなく取り組んでこられました。その本部長の後任として責任の重さを感じながらも、電友会のさらなる発展に尽力してまいりたいと思います。

電友会は、会員相互の親睦、会員の豊かな生活の維持と生きがいの充実、合わせてNTT及びNTTグループ事業の発展に寄与することを目的とする組織であります。これからも復興支援ボランティア活動や各地のイベント・祭りにも「チームNTT」として積極的に関わってまいります。

しかしながら、私どもが直面している課題の一つに、会員数の減少があります。過去3年間で東北地域の会員数は800名以上減少し、令和4年3月末時点では5,235名であった会員が、令和7年3月末には4,432名となっております。新規入会

者は毎年70～80名程度おりますが、死亡や退会による減少を補うには至っていません。

会員数の減少や諸物価の高騰による財務的な厳しさがある中でも「今日行くところがある。今日用がある。今日会う人がいる。」（教育・教養・教会）をモットーに、会員の皆さまと共に、楽しく充実した電友会の運営を目指してまいります。人生百年時代において、シニアライフを健康で楽しい日々を過ごすための「場」として、電友会の存在意義はより一層大きくなるものと信じています。

これからも電友会が、皆さまにとってより魅力的な「場」となるよう、一歩ずつ着実に歩みを進めてまいります。今後とも温かいご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。皆さまとご家族のご健勝を心よりお祈りし、私の挨拶といたします。



ごあいさつ

東日本電信電話株式会社
宮城事業部 福島支店長

大 橋 真 孝



東北電友会の皆さまには、日ごろからNTT東日本グループの事業運営に対し、格別のご理解・ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年7月に福島支店長に着任しました、大橋真孝（おおはしなおか）と申します。愛知県の出身ではありますが、3回目の東北勤務で、福島支店においては14年前の東日本大震災発災時以来の勤務となります。こうして再び福島エリアでの勤務ができることは、とても感慨深く、小生を社会人として育てて頂いた社員の皆さま、地域社会の皆さまに恩返しをさせて頂きたく、日々精進しております。

NTT東日本福島支店は地域密着型の通信事業者として、県内の自治体・企業・住民の皆さまの地域課題に寄り添い、多様なサービス、地域の特性やニーズに応じたソリューションを展開しております。特にAI/IOT/クラウドサービス等のICTを活用した地域密着型サービスを提供することで、地域のデジタルトランスフォーメーションを支援し、NTT東日本パーパスである「地域循環型社会の共創」の実現に向けて活動を展開しております。

福島県は東日本大震災で経験した自然・人的災害を風化させないことも重要であると考えております。NTT東日本では4月より「防災研究所」が発足し、過去の災害復旧・復興にて得た知見を地域に還元すべく活動を開始しております。福島支店においても、県内の25自治体と「災害時等における相互協力

に関する基本協定」を締結し、防災関連システムの整備や訓練を実施しております。また150名強の社員が防災士の資格を有し、地域の安全・安心を高める取組みを行っております。

地域観光資源を活用した取組みも進めております。只見川電源流域振興協議会（奥会津振興センター）と連携し、カーシェアリングによる観光客の周遊性を高める実証実験を行い、NTT東日本の技術やノウハウを活用して、得たデジタルデータの分析を行っております。更なる奥会津の魅力高める取組みを通じて交流人口増加につなげ地域課題の解決を支援しております。

今後の事業展望としては、安定した通信サービスの提供に加え、「防災」「観光」「アグリ」を中心とした地域課題に対して「地域」に根ざしたネットワークとエンジニアリング力を活用し、「地域」の皆さまとともにミライを考え、「地域」の課題解決と価値創造、レジリエンスの向上に貢献していきます。

民営化40周年の本年ですが、ダイナミックグループもと、社名が「NTT東日本株式会社」となります。

伝統を継承しつつ、更なる発展に向けて精進してまいりますので、引き続きのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、東北電友会の益々のご発展と会員の皆さまのご健康とご多幸を祈念いたします。

◎支部長メッセージ



福島支部長

山田 斉

前回(会報91号令和4年8月発行)に続き、東日本大震災及び福島第一原発事故から14年が経過した福島県内の、特に原発事故関連の復興状況等について、他県の皆様への情報共有として、記述いたします。

他の県とは異なり、原発事故が伴ったため、その立地及び周辺地域には、未だ立ち入り制限が続いている地域が残っております。

常磐線や高速道路の全線開通に伴い、住民の帰還を促す復興拠点の整備や企業誘致など、産業活性化に取り組んでおりますが、街並みなどの目に見える復興は進んでおりません。

原子炉の廃炉に関連し、原子炉建屋に流入する地下水等から放射性物質を除去した後、処理水をタンクに貯蔵し、希釈して海洋へ放出する作業が令和5年8月に開始されました。住民や漁業関係者からは、安全性より風評被害が大きいと反対が有りましたが、大きなトラブルも無く放出は続いています。

しかし、海産物の輸出に関しては、一部の国で理解が得られず、福島近海に限らず広範

な輸入規制がまだ解除されていないのが現状です。

放射能除染作業で発生した土壌や廃棄物の集積・搬入のため、中間貯蔵施設が整備されました。その結果、県内で一時保管されていた仮置き場は、原発立地及び周辺地域を除き、解消されました。

しかし、最終処分に向けた減容・再生利用は進んでおらず、中間貯蔵の開始から30年以内に、福島県以外で最終処分を完了するのは難しい状況です。

原子炉の廃炉作業は、先端にカメラを装備したロボットアームを用いて、令和6年11月と令和7年5月の2回、デブリ(溶融した原子炉と核燃料棒の塊)と思われる物体を少量取り出し、分析が始まりました。今後、溶融した物体の原子炉からの搬出方法や、搬出後の最終処分場の選定、処分方法の決定など、まだまだ難題が山積みです。そのため、廃炉の完了には今後40年以上は掛かると想定されております。

令和2年の年明けから始まった新型コロナウイルスの感染は落ち着き、日常生活が回復しつつあります。来日する外国人観光客の増加によるインバウンド需要への期待が、会津など観光地で膨らんでいます。

電友会の福島県内各地区でも、自粛していた総会や懇談会の集合開催を再開し、旧知の仲間と談笑し盛会となっています。

また、会員同士を繋ぐサークル活動は、電友会の中心的な取り組みであり、例会などを開催するサークルの代表や、幹事などの世話役の方々の尽力に深く感謝しています。

ある地区では高齢会員の多くが自家用車の運転を止めたことで、イベント参加の交通手段が確保できず、活動が停滞しつつあります。さらに、数年後には会の継続が難しくなる可能性があると相談もありました。

ところで、集いとして、福島地区電友会では「写真」や「陶芸」などの趣味のサークルが活動しており、会員の創作品を発表する場として「余技作品展」を開催していました。しかし、会員の高齢化に伴い、出展者や来場者の減少、さらには発表するサークルの解散が有り、平成28年の開催を最後に中止となりました。

しかし、写真や園芸など、お住まいの地域の市民サークルや初心者向け教室に参加し活動している会員も多いため、新たな発表の場として令和6年12月に「ライフワーク展」を開催しました。

出展者19名が30作品を展示し、来場者に対

して自ら説明を行いました。

設営から撤収までを含めた開催日の2日間は、生憎の雨天となり、来場者は40名弱でした。しかし、出展者同士が作品を鑑賞・評価し合い、昔話に花を咲かせるなど、会場は終始和やかな雰囲気包まれていました。

会員が楽しむスポーツや趣味を、電友会のサークルとして設立・運営するにあたり、参加者が十分に集まらない場合でも、事務局が何らかの形で関与し、発表の場を設ける事が必要であると改めて確認しました。

会員の皆様がより楽しく繋がっていただける電友会を目指し、各地区に必要な支援を検討しながら、共に進めていきます。



◆NTTグループ東北だより

◎仙台・青葉まつりへの参加

NTT東日本宮城グループは、5月に開催された「第41回仙台・青葉まつり」に参加しました。OB・OGの皆さまも含めた総勢約160名が、2日間にわたり、心躍るお囃子や、躍動感あふれるすずめ踊り、そして音で観客を引き込む「囃子山鉦」の巡行を通じて、会場を華やかに盛り上げました。

今年は特に、NTTドコモ東北支社の野沢支社長が山鉦に乗られるという特別な演出もあり、NTTグループの結束力と地域への思いが一層際立つ参加となりました。沿道からは温かい拍手と声援が送られ、参加者一同大きな励みとなりました。

今後もNTTグループは、東北各県で開催される夏祭りや地域の伝統行事に積極的に参加し、地域とのふれあいと絆を深めてまいります。



羽ばたく想いを込めて――すずめ達の夏が始まる

引き続き、参加者への温かなご声援とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◎NTT東日本みやぎの森プロジェクト

6月14日「NTT東日本みやぎの森」プロジェクト』として、クロマツの苗木植樹後の生長活動の下草刈り作業を今年も実施しました。当日は、気温も高く大変暑い中の作業となりましたが、参加者総勢69名のうち、電

友会から19名もの方にご参加いただきました。電友会の皆様には現役以上にご活躍いただき変ありがとうございました。



みやぎの森プロジェクト参加者 作業が終わって晴れやかな笑顔

◎スポーツクラブ後援会情報

日頃より、NTTグループ東北スポーツクラブ後援会の活動にご理解とご協力いただきありがとうございます。また、「東北マークス（ベースボール・バドミントン）」後援会へ多くの方からご賛同いただき改めて感謝申し上げます。

ベースボールクラブは、7月6月に開催された「全日本クラブ野球選手権宮城県大会」において、見事優勝し、宮城県代表として8月9日から福島で開催される東北大会へ出場します。この大会で9月13日から愛媛県松山市で開催される全国大会への代表権を勝ち取り、念願の優勝を目指してまいります。

バドミントンチームは、6月に愛媛県松山市で行われた「全日本実業団バドミントン選手権大会」において178チーム中ベスト32の結果を残しました。また11月には、「S/JリーグⅡ」が青森県



念願の優勝を目指してー東北マークス

黒石市で開催されます。昨年、惜しくも最高峰である「S/J

リーグ」復帰は叶いませندしたが、今年こそは「S/JリーグⅡ」で優勝し昇格できるよう全力を尽くしてまいります。引き続き、選手たちへの温かいご支援、熱いご声援をお願いいたします。



バドミントンチーム
東北マークスの精鋭たち



静かなる闘志を秘めてー
その一打に、すべてを懸ける



ふたりで描く、
軌道の美学

◎社名変更について

6月18日の株主総会において社名を「日本電信電話株式会社」から「NTT株式会社」に変更する事が正式に決定いたしました。

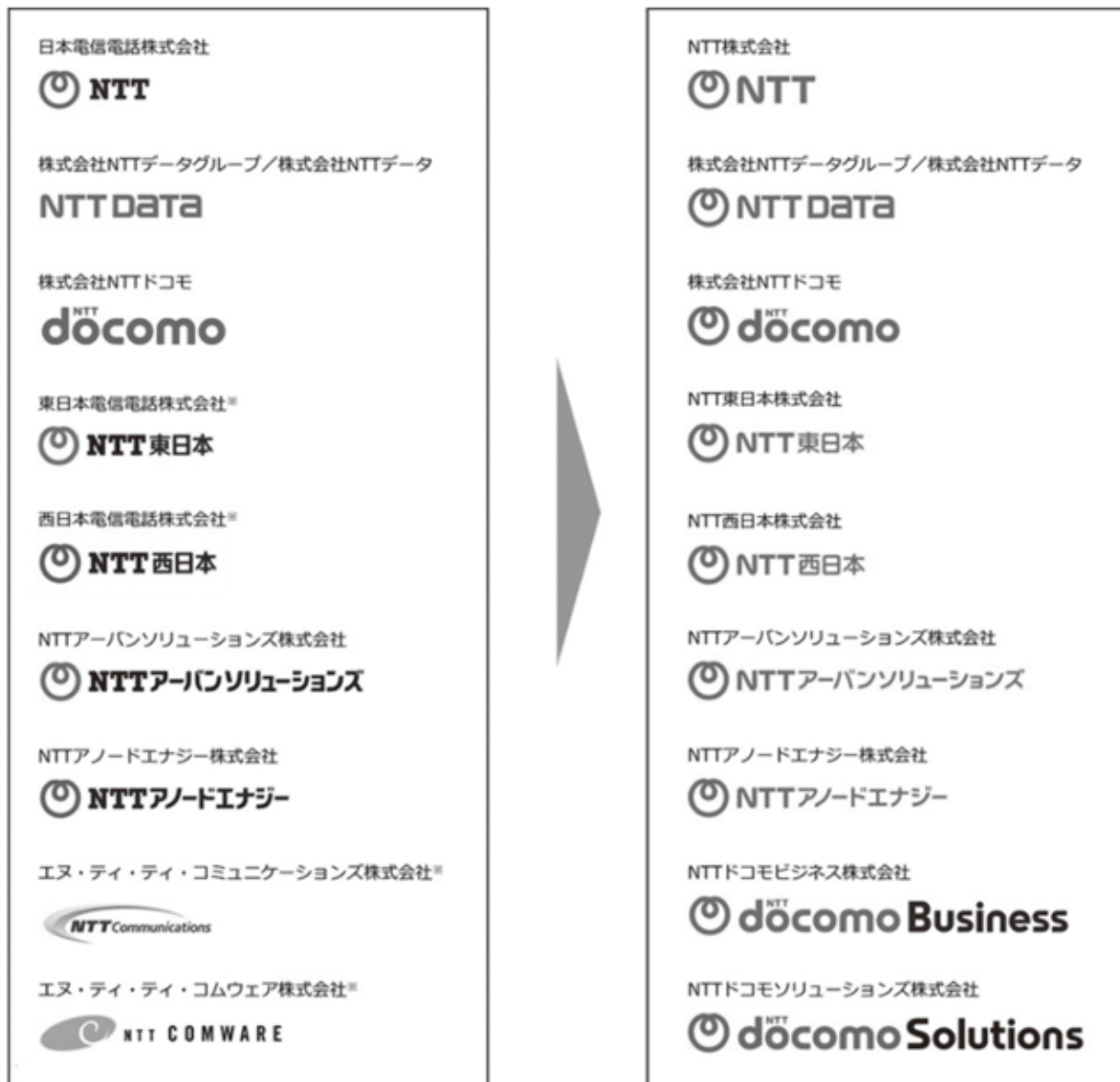
民営化した40年前に設定した社名と現在の事業内容に隔たりがあり、今後グローバル事業展開を加速するため、海外にも通じる社名に変更することとなりました。これにあわせて「東日本電信電話」も「NTT東日本」となります。

また、競争の激しいグローバル市場において、国内外統一のコンセプトのもとNTTグループの技術力やケイパビリティを分かりやすく示し、先進的なグローバル企業としてのブランド向上を図るため、グループのCIを刷新します。

社名およびCIは7月1日から変更となりますが、引き続きNTTの事業運営へのご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。（※次ページにグループ各社の新CIを掲載しています。）



〈 7月1日から変更となったグループ各社新CI 〉



資材をつなぐことで、情報をつなぐ。
そしてもっと豊かな未来をつないでいきます。



資材リンコム株式会社 東北支店

〒989-3124 仙台市青葉区上愛子字松原47-9 TEL.022-302-8100

<https://www.slinkcom.jp>

— 忘れない。忘れてはいけない —

震災・災害コーナー



◎防災は日頃からの備えが大切

電友あさか会 水野 榮

1. 目に見えない防災に対する

心構えとは、なにか

いつも私の拙い防災の話を読んでいただき、ありがとうございます。皆さんは長年にわたり、N T Tで地域の皆様のお役に立ってこられた方々ばかりです。これからは、少しでも長生きし、ご自身の人生を存分に楽しんで下さい。

今回は、少し違った視点から防災を考えてみたいと思います。近年、大規模な災害が多いと思いませんか。皆さんが子どもの頃にも自然災害はありましたが、これほど大きな被害が発生することは少なかったように思います。なぜ今大規模な災害が発生するのでしょう

うか。(地震、台風による雨風水害、山火事等々)その共通の原因の一つに、地球温暖化(CO₂の増加)があります。

地球全体の平均温度が上昇すると、異常気象が発生し、海水温が上昇します。それに伴い、大雨や干ばつが多発します。これまで週に一度程度降っていた雨が、月に一度まとまって降るようになるなど、降水パターンが変化しています。統計上の降水量はほぼ同じでも、干ばつによる農業や日常生活への影響、集中豪雨による洪水発生が問題となります。

さらに、夏は猛暑による熱中症が増え、冬は災害級の大雪が降ることもあります。その原因はCO₂の増加による地球の平均温度の上昇です。その結果、自然災害がより強大になり、多発するようになります。

防災の基本は、自分の命を自分で守ること、そして大切な人の命も守ることです。いつも言われる事ですが、平時から備えをし、災害

発生時には命を守ることが最優先です。避難生活では生き抜き、関連死を防ぐことが重要です。その為には防災への関心を高め、日頃から備えておくことが不可欠です。

私たちの生活には「形のあるもの」と「形のないもの」があります。形のあるものとは、正しい知識や技術であり、各地域で実施される防災訓練や講習会がこれに該当します。

一方、形のないものとは、自分の気持ちの持ち方や考え方です。その一例としては「正常性バイアス」があります。これは自分にとって不都合なことや考えたくないことを無意識のうちに無かったことにし、現実から目を背けてしまうことです。

形のあるものは教えられれば身につけることが出来ますが、形のないものは、自分で考え、判断しなければなりません。そのため、誰でも出来そうに思えてなかなか出来ないものです。電友会の皆さん、改めて防災について考えてみましょう。自分の命を守ること、そして大切な人の命を守ることを考えて下さい。災害で自分や大切な人を失うことなく、楽しい人生を送ってください。

2. 防災は他人任せでなく自分で確認、

チェックが必要です

どんなに文明が進んでも、自然災害は発生

します。そのため物事の原点に立ち返ることが大切です。

地震の津波の場合はすぐに高台に移動する。水害、土砂崩れ、火事などの場合は、安全なところに移動する。(誰でも足があるので移動できる) 最低限自分に必要なものは普段から直ぐに持ち出せるように準備しておく。地震の備えとして、建物の一部だけでも崩れないように対策しておく。天井、屋根で押しつぶされないようにしておく事が重要。それでも被害を受ける可能性もあるので、最低限の応急方法を練習しておくこと。各地域で消防や日赤が開いている講習会に参加して、知識と技術を身につけることが重要です。

皆さんは1年ごとに歳をとります。昨年は出来ていたことが今年は難しくなることがあります。それに応じた準備や備えを考えていますか。「昨年できたから今年も大丈夫だろう」と思っている、災害時にはとっさの判断や行動が出来ず、辛い思いをしたり、ケガをしたり、最悪の場合は命を落とすこともあります。人は誰でもいつかは亡くなりますが、寿命を全うするのと、災害に巻き込まれて命を落とすのでは違うと思います。遺された方々に辛い思いをさせないためにも日頃から考えて下さい。

自分で対応策を考えるのが難しくなったら行政に相談してください(公助)。一人ひとりに合った対策と一緒に考えてくれます。

防災の基本的考え方は

〔平時〕 備える(準備をする)

〔発災時〕 命を守る、助ける

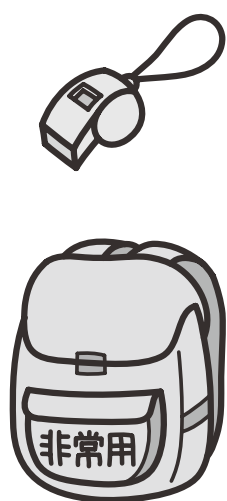
〔避難生活〕 生き抜き、災害関連死を防ぐ

このような備えは平時に出来る事をやっておくことが大切です。防災の話は一度や二度聞いただけでは忘れてしまいます。何度でも繰り返し話を聞き、実技を通して「頭ではなく体で覚える」ことが重要です。行政が毎年実施している避難訓練や防災訓練は、何回も繰り返し経験することにより、体が覚え、非常時に考えなくても自然と行動できるようになってもらいたいからです。これが一番大切な事なのです。

須賀川市の防災を考える会

防災士 水野 さかえ

090-1372-4141



◎再考・14年経過の東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故について

―忘れてはならない震災を再度

思い起こし、悔いを残さないために―

福島地区電友会 杉 才芳

毎年のように発生する様々な災害で被災された方々、亡くなられた方々に、改めて心よりお悔やみ申し上げます。

忘れてはならない震災を改めて思い起こし、悔いのないように、反省を込めて、記憶と記録に残し、後世へ伝えたいとの思いでこの文を書き記しました。ドキュメント形式の長文ですが、心に留めていただければ幸いです。

《予知できたことは、

ためらうことなく行動》

私は福島県南相馬市原町区の出身で、福島県伊達市に居を構えながら、当時NTT東日本―福島の郡山勤務をしていました。

2011年3月11日の東日本大震災から遡ること4年前の2006年6月、父が重度なる脳梗塞により下半身麻痺となり、重度要介護認定を受けました。母と二人暮らしだったことから、母の負担を軽減するために、南相馬市原町区の介護施設に入所しました。

震災発生時、私はN T T郡山駅前ビルの1階で業務をしていました。14時46分、経験したことのないほど長く激しい揺れに耐え、局舎の駐車場へ避難して状況を見守っていると、同僚の携帯電話のテレビ画面に映ったのは『岩手県宮古市の防波堤を越えてくる大津波』の映像でした。その瞬間、これまで抱えていた違和感が現実のものとなったことを悟り、事の重大さを実感しました。

16時頃、全員帰宅の指示が出され、車で自宅へ向かうことになりました。避難中、車のラジオでは各地の津波到達時間が頻繁に伝えられていました。

17時頃、南相馬市の介護施設に津波が到達し、多くの犠牲者が出たという一報が流れました。その場所は、かつて父がお世話になっていた施設でした。

耳にした瞬間、脳裏をよぎったのは『違和感』起こってしまった』という思いでした。

その被災状況は、高齢の入所者36人が死亡、1人が行方不明という大惨事でした。

2011年4月下旬、私は津波で被災した介護施設と、被害を受けた地域を確認するため現地へ向かいました。家内の叔母が住んでいた下渋佐集落は全壊し、跡形もなくなっていました。幸いにも、叔母は避難して無事で

したが、津波の犠牲者の中には小学校時代の同級生の名前が含まれていることを後に知りました。

津波の被害を受けた地域は、海辺でありながらも『空気が流れていない不思議な感覚と異様な雰囲気』に包まれていました。

私は、その場に立ち、行動を起こす決意をしました。『津波被災状況を記録し、写真として残し、後世へ伝えること』——この震災を決して忘れず、未来に教訓を残すために。



津波被災の介護施設（2011年4月2日撮影）
正面奥が海岸地帯

震災復旧後

介護施設は内陸に移転され、海岸の堤防と道路はかさ上げ整備されました。また、『津波浸水地域の看板表示』や『ハザードマップ』などを通じて、注意喚起の工夫が施されました。しかしながら、残念なことに、震災慰霊碑にはこの施設の犠牲者の名前が刻まれていません。

へ教訓

予測出来る災害に危機感を持った人が行動しないと、未然に防ぐ一歩にもならない。自ら行動出来ない場合、言葉に出して周囲に伝える。



津波で全壊した下渋佐集落
（2011年4月2日撮影）

さて、今回の投稿にあたり、盛岡電友会の藤井照夫様にも声掛けし、執筆をお願いしました。藤井様は、大槌町の津波から逃れる状況の中でも、福島原発被災状況を気遣っておられました。貴重な経験の寄稿に御礼申し上げます。

「14年経過の震災を振り返って」

盛岡電友会

藤井 照夫

東日本大震災から14年が経ちましたが、災害を風化させない為にその当時を思い返します。2011年3月11日は私のお客様（大槌町）の光回線工事日でした。立会の為に訪問していましたが、午後2時46分頃に大震災が発生しました。工事担当者の方から『藤井さん！盛岡に帰った方がよいよ』とアドバイスされ、大槌町から戻る途中に津波の第1波が約200m手前に見え、慌てて高台の高速道予定の道路に逃げて難を免れました。当日は各所で道路が寸断されましたが、運良く高台の道路に逃げられた事により、一晩でしたが避難所で車中泊を経験しました。あれから14年も経ちました。被災された皆様、亡くなられた方々には、心からお悔やみ申し上げます。これからは、大事な命を守ることを長く後世に伝えていきたいと思います。

ひとくちメモ

OB 関連の問合せ先

NTT企業年金基金に関すること

NTT企業年金基金

フリーダイヤル

 0120-372-547

NTTグループ規約型企業年金基金に関すること

企業年金ビジネスサービス

フリーダイヤル

 0120-563-976

NTT健康保険組合に関すること

NTT健康保険組合

フリーダイヤル

 0120-375-617

相互扶助部、火災共済等に関すること

電気通信共済会 福利厚生お客様総合センタ

フリーダイヤル

 0120-137-294 (ヒトミナフクシ)

つながろう。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

NTTドコモビジネス 東北支社

東北地方本部だより

東北地方本部事務局

◎電友会本部理事会

令和7年3月4日、オンライン会議で実施。「令和7年度事業計画」等の意見交換を行い、これをベースに地方本部の事業計画を策定することで意識を合わせました。

◎第2回支部長・事務局長会議

令和7年3月11日、NTT五橋2ビルで開催。まずは東日本大震災で犠牲となった方々のご冥福を祈り、黙祷を捧げました。会議は高石本部長挨拶の後、本部理事会模様について報告があり、続いて令和7年度事業計画の意見交換、クラウドによるデータベースの管理

とセキュリティ確保について説明がありました。さらにサークル助成金申請における注意点、東北電友会会報97号の発行等について情報共有を図るとともに、ASOからの協力依頼について内容を説明しました。



支部長・事務局長会議 模様

◎地方理事会

当初3月6日に開催予定でしたが、思いもよらぬ新幹線のトラブルで急遽日程を変更しての開催となりました。

令和7年4月21日、NTT五橋ビルで開催。

令和7年度地方評議員会の議案書審議、電友会ボランティア活動賞、功労賞の推薦等を諮り、各理事（支部長）の賛同により承認されました。



地方理事会 模様

◎東北地方本部評議員会

令和7年5月19日、ホテルメトロポリタン仙台において開催。ご来賓には電友会本部から副会長の吉澤和弘様にご出席をいただきました。会議では、6年度事業報告並びに7年度事業計画、役員改選等について審議し、全て原案どおり可決されました。

これに伴い、本部長が高石茂氏から佐藤糾氏へ交代となりました。その後、電友会の育成発展に特に功績のあった石垣正一様（石巻電友会）後藤政行様（栗原クラブ）後藤ふみ子様（栗原クラブ）下川原幸子様（盛岡電友会）大坂英機様（おおふなと電友会）大関文雄様（秋田支部）坂本龍馬様（秋田支



高石本部長挨拶



新役員の紹介



吉澤副会長挨拶

部）小林武佑様（秋田支部）最上敏夫様（秋田支部）苦米地弘之様（東北地方本部）に、また、地域社会活動に活躍し功績のあった金沢聡様（秋田支部）に地方本部長表彰が行われました。



本部長表彰

次に、企画総務部長 平野 裕様、東北各県のNTT支店長及び賛助会員企業（NTTグループ各社）の幹部の皆様とともに、NTT東日本執行役員宮城事



須藤事業部長講演

業部長須藤博史様による「NTT東日本の事業動向」と題しての講演を拝聴しました。引き続き東北各地区の会長等と交流を深め、楽しい懇親会となりました。



懇親会
(メトロポリタン)

◎ボランティア活動

令和7年6月14日「NTT東日本みやぎの森」プロジェクト―東松島市海岸防災林再生活動―について、浜市地区の植樹後の成長管理（葛の根とツルの刈り取り）活動に参加しました。五ッ橋クラブ（10名）石巻電友会（7名）の会員計17名が現役とともに、暑い中で奮闘しました。



防災林再生のボランティア活動に
17名が参加

◎物故会員の叙位・叙勲

次の方々は、生前のご功績により、それぞれのご逝去の日をもって叙位・叙勲の榮譽に浴されました。

（叙位・叙勲）（支部名）（ご氏名）

瑞宝単光章 宮 城 板倉 寛 様

従五位（平成27年瑞宝双光章）

宮 城 鈴木 胤顯 様

瑞宝単光章 福 島 菅野 信義 様

（令和6年12月～令和7年6月まで）